

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970102008		
法人名	ドリームワークス有限会社		
事業所名	グループホーム ドリーム		
所在地	山梨県甲府市川田町367-1		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

果樹地帯の恵まれた環境の中で、利用者とスタッフが共に生き生きと充実した生活を送っています。ドリームは、施設長が生まれ育った所にあり、隣接して自宅もある。そのため顔馴染みの人々が多く暮らしており、地域との交流が自然な形で行われている。周りに広い果物畑があり、そこで採れた季節の果物をいただき、お茶を差し上げるなどの交流もある。施設内は危険な物は排除されており、すっきりと整理整頓され清潔感がある。掲示物も心がこもった温かいものが飾られている。職員は今までの利用者との関わりやレベルアップのための研修を通して自分のしていることが他のスタッフにも理解され、全スタッフが共通理解をもって利用者個々へのサービス提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

なだらかなスロープを行くと、おとぎの国のような白い扉がある。広い玄関にはチューリップの花が咲きガラス窓にはピンクの桜の花模様が飾られ早春を感じた。広いフロアに利用者が全員集まり軽い体操を兼ね歌いながらレクリエーションが始まっていた。介護度5で動きのとれない利用者もソファに横たわりながら一緒に楽しんでいた。個々の利用者の介護度を把握しながら職員と共に楽しむ状況が伺えた。また外部からの研修生を受け入れヘルパー育成にも貢献していた。大きな窓のすぐ下はブドウ畑があり季節の変化を感じたり農家の働く様子を見たり五感を活かした実生活が身近に観察できる。隣に管理者の自宅があるため心強く職員と運営者、利用者家族の信頼関係と絆を感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームドリーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境を守る。利用者個人個人の人格を尊重する。地域に根ざし地域に認められる。以上を理念として掲げサービスに当たっている。	日常、家で暮らすような環境の中で利用者の状況や介護度を把握して生活の介助や支援に職員は務めている。カンファレンスの時、理念の再確認をして実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の自治会にも所属し常に地域とのつながりを意識しながら利用者サービスに努めている。	運営者が地元出身で自宅が施設の隣にあり自治会との繋がりも深く近所付き合いも気軽にしている。神社やお寺の広場も近く夏祭りや各種行事に参加して地域の人との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内での認知症高齢者を抱えた家族の相談に乗り、アドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、出席者の意見を伺いサービスに活かしている。	会議の参加者は自治会、地域包括支援センター、家族会、管理者のメンバーで2ヶ月に1度開催している。施設の状況と経過報告や活動報告これからの予定などの連絡をしている。参加者のきめ細やかな意見を聞きサービスの向上に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中でも利用状況をつぶさに報告し、時に助言を求めるなど常に連携している。	行政担当者との関係は大変良く、いろいろな相談に応じてくれる。利用者の食事が取れず病院に移る時など助言があり手続きなども協力的で心強い。運営推進会議にも必ず参加してくれ身近な関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設内の職員研修でも勉強し、常に身体拘束は0となっている。	屋間は玄関の鍵が解放され出入り自由になっている。職員は月1度のカンファレンスで身体拘束について再確認をしている。スピーチロックについても職員同士で気をつけるようにしている。○だから○してもいいですか？ときつく言わないように心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様職員研修で勉強し、言葉も含めた虐待は0となっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも成年後見人が担当している方がいるため、十分に理解している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際十分に説明し、理解してもらってから契約している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族の言葉には常に耳を傾け要望を把握しサービスに活かしている。	玄関の解かりやすい場所に意見箱が設置されている。家族が面会に来た時に意見や要望を聞き参考にしている。利用者の家族の状況を把握した上で相談を受けたり管理者は細やかな取り組みを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎの際、また毎月の職員会議の際に全職員から意見を聞きドリームの運営や利用者サービスに活かしている。	毎月の職員会議で言い忘れても、お茶の時間に気軽に意見が言える状況にある。良いアイデアや提案は話し合い、改善し柔軟な対応をしている。職員は働きやすくのびのびと介護に専念している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の仕事の内容や意欲などを見ながら、給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ドリーム内でも研修を行い、更に外部の研修にも参加させ能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとも交流し、情報交換など互いの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所してから慣れるまでは特に信頼関係の構築に力を注いでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談の段階からご家族の要望等は詳細まで聞き取り把握し、円滑な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のとおり本人やご家族の希望要望や、今おかれている状況を詳細に把握して利用者にも最適したサービスを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	利用者個々の人格を尊重し、人生の先輩として敬いながら共に生活できる環境づくりを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡報告を怠らず、ご家族とドリー ムで利用者サービスを提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人知人が面会に来たり、親しんだ場所があ つたら、そこへドライブに行くなど、これまでの生活 を断ち切らないよう努めている。	利用者の希望で面会や外泊、外出、家族の泊まりも 自由に来れる。近くの友人が気軽に会いに来たり携 帯電話を使う利用者もいるので、職員はその関係 を大切に継続する為に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	常に利用者同士の係わりには気を配っている。不 穏な雰囲気があればすぐに離して話題を変えるな ど、良い雰囲気の中で利用者全員が生活できるよ う努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も担当職員やご家族と連絡を取りながら、 利用者がより良いサービスを受けられるようフォ ローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者個々の希望要望には常日頃から耳を傾けて 把握に努めている。	利用者の状況を把握している担当の職員が利用者 の顔色や気持ちの変化を見出している。話を聞い たり体調に合わせ支援や介助に努めている。利用 者は職員に髪をカットしてもらった事でスキンシ ップにもなり家族的な雰囲気と優しい人間関係が 伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族や担当のケアマネージャーと入居前から密 に連絡を取り、これまでの生活歴や、受けていた サービスなど詳細に把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから始まり、利用者一人 ひとりの状況の変化には注意を払いながら、その 日の状況に応じたサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に 即した介護計画を作成している	利用者の状況をお便りで報告し、ご家族の意見 を伺いながらケアカンファレンスに盛り込み、更 に担当の医師や看護師に相談しながら個々に合 わせたサービスを提供している。	施設の様子を「ドリーム通信」に載せて家族に報 告している。利用者の健康管理は担当の医師、 看護師が月に1度来所し定期的に検診している。 利用者の介護度と状況に合わせてその都度介護 計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録に記入しながら、引継ぎ時も 職員同士で密に報告や連絡をして常に職員全員 が共通理解を持ってサービスに当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況の変化にはスタッフ全員で常に注意を払っているなのでその都度柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は十分に構築されているため、地域資源も視野に入れながら利用者サービスに当たっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択は本人、ご家族の希望通りとし、その他必要に応じて様々な科を診療できるよう、医師や病院との係わりには常日頃から気を配っている。	利用者の家族からかかりつけ医を聞き受診している。訪問診療や訪問看護を受け入れる体制がある。病院に受診の時は家族の同意を得て結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当の看護師とは常に情報を提供し、大事に至る前に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上記のとおり、担当の看護師を通じて各専門医との関係も良好であるので入院治療、退院後の対応なども万全になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態が悪化してきた場合は、看護師、医師も交えてご家族と密に協議しながら、利用者への対応がより良いものであるよう心掛けている。	入居時に重度化と終末期に対しての考えを家族と医師、看護師を交えて話合っている。食事が口から食べられる間は準ターミナルのように本人と家族の希望に沿って施設対応を図っている。本人にとって最良の方法で過ごせるよう職員全員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはスタッフ全員に配布し周知徹底し、更にスタッフルームにも用意してある。また毎月の職員会議の際確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を行い、うち1回は夜間想定訓練を行っている。また、施設長は地元の消防団のOBであるため消防団の協力を得られている。	火災に備えてスプリンクラーを設置した。年に2回の防災訓練を実施している。夜間を想定しての訓練もしている。管理者が地元の元消防団員として奉仕活動もした経験があり、管理者の知人も多く近所の協力体制も得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという意識はスタッフ全員が持っているため、利用者への言葉かけや態度には十分に配慮しながらサービスを行っている。	利用者の部屋に入る時、ノックをして「入ってもいいですか」と声をかける。利用者を人生の先輩と尊敬の念を持ち職員は支援、介助に務めている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望は最大限聞き入れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況は日々変化することがあるので、その日の個々のペースに合わせたサービス提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに洋服を入れ替え、時期に合わせたコーディネート支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL的に可能な利用者が居る時は、簡単な調理や食後の皿洗いなど、出来ることを無理なく手伝ってもらいながら過ごしている。	現在は介護度の高い利用者が多く、食事の準備、後片づけのお手伝いが無理な状況にある。お昼が近づくコトコトと包丁の音、煮物のいい香りが漂い、温かい料理と楽しい食事風景が想像できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶など、栄養士が個々に合わせた調理法を工夫し、栄養バランスや水分補給が整うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを個々の常態に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツではなく自立排泄が出来るよう、定期と併せて希望に応じたトイレ誘導をしている。	排泄チェック表で利用者の排泄状況を職員が把握している。職員はオムツを使わない支援に努め、さりげなくトイレ誘導をしている。介護度によって夜間はポータブルトイレやオムツを使う事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師とも相談しながら、水分や薬、運動で調整し、それでも無理な場合は浣腸で排泄支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつ入ってもらい、ゆったりと過ごせる様支援している。また、希望に応じて入浴日以外の入浴サービスも行っている。	基本的に月、木曜日が入浴日となっている。希望があればいつでも入浴できる。お風呂場は広く清潔感があり補助椅子や手すりが取り付けられてあり個人別に入浴を楽しむ事が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の毎日の睡眠状況を把握し、足りない時は昼寝をしてもらったり、その状況に応じて利用者が快適に過ごせる様気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表をスタッフルームに置き、スタッフ全員が効能や副作用を理解し、利用者の変化に気をつけながら服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の特技や趣味をご家族から伺い、それらを最大限活かしながら日常生活を過ごせるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩に出かけたり、ドライブに出かけたり、表の空気を吸って気分転換できるよう支援している。	近所にお寺や神社があり、暖かい時は桜の花見や散歩にも出掛ける。金銭感覚の持続の為に近所のコンビニエンスストアに買い物に行く事もある。広々と景色の良いフルーツ公園へドライブに出かける時には、みんなで外食を楽しむ支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーなどに出かけ買い物を楽しむ時間を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じてご家族に電話をかけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度には十分注意を払い、またBGMの音量などにも気をつけている。また朝日などが直接当たるような時間帯はカーテンを閉めておいたり、環境には気を配っている。	広く清潔感のあるリビングに和風な飾り付けがしてあり、笑顔の利用者の写真が貼られていた。利用者全員が集まり介護度5の利用者もみんなの笑い声や歌を聞いているかのようである。静かなBGM、柔らかな陽射しが差し込み利用者職員双方の居心地の良さが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳コーナーの他ソファも用意されているので、何時でも一人になったり気の合った利用者同士が語り合えるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはコタツや仏壇など好みの品を自由に持ち込んでもらっているので、これまでの生活環境を維持しつつ居心地よく過ごせるようになっている。	居室は和風と洋風があり、利用者の過ごしやすい工夫が施されていた。使い慣れたタンスや仏壇が置かれ、壁には家族の手紙や写真が貼られ自宅と変わらない生活の様子が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はフラット構造になっており、安全を確保した中で利用者が出来るで自立した生活を送れるよう支援している。		